

四日市市防災情報 HP をリニューアルしました！

新しい防災情報HPの特徴

- スマホでも見やすい！
- 緊急情報が一目でわかる！



市役所ホームページからは、こちらのバナーをクリック！

みなさんは、四日市市に防災情報専門のホームページがあることをご存じでしょうか。

四日市市では、令和5年6月1日に防災情報ホームページをリニューアルしました。パソコンからだけではなく、スマートフォンからでも見やすいサイトとなっています。

また、トップ画面に避難所開設情報や防災情報を掲載するなど、緊急情報が一目でわかるようになっています。

まだホームページを見たことがない方は、ぜひご確認ください。

四日市市 防災情報

検索

キキクル四日市市カスタマイズ版を作成しました

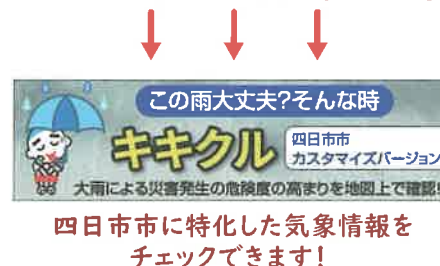
キキクルって？



大雨や洪水による災害の危険が、どこで、どのレベルで迫っているかを地図上で知ることができる情報で、気象庁 HP で公開されています。

土砂災害の危険度の「土砂キキクル」、浸水害の危険度の「浸水キキクル」、洪水災害の危険度の「洪水キキクル」があります。

このバナーをクリック！



ARアプリで今すぐ確認！ あなたの家の浸水リスク

AR防災学習アプリ『ARLook (あるっく)』をダウンロードしてあなたの家やよく訪れる場所の浸水リスクを確認してみませんか？



あるっく
ARLook ってなに？

スマホなどのカメラをかざして地域を「歩いて」「見る」ことでAR(拡張現実)技術により表示される近くの避難所や現在地の浸水深などを見ることができるアプリです。



【対応機種】AR Coreに対応した機種 【推奨スペック】iPhone10以上、Android11以上

四日市市 S アラート

市の防災行政無線(固定系)の放送内容がスマートフォンに直接届く！インターネットに繋がる場所であれば全国どこにいても登録地区の情報が届きます！

※端末の位置情報は取得しません。

音声でも
文字でも
確認できる！



アプリをダウンロード！「Sアラート」で検索またはQRコードから



※ Apple、Apple ロゴ、iPhone、および iPad は米国その他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
App Store は Apple Inc. のサービスマークです。
※ Android、Google Play、Google Play ロゴは Google LLC の商標または登録商標です。



目次

1. 協議会活動の報告 1P
2. 各地区での取り組み 3P
3. 防災情報 5P

今回は、総会の報告と各地区の防災への取り組みをご紹介します。

令和5年度四日市市地区防災組織連絡協議会の総会を開催しました

四日市市地区防災組織連絡協議会 会長 里中 俊雄

令和5年5月24日(水)に、令和5年度四日市市地区防災組織連絡協議会総会を開催いたしました。

今回の総会はコロナ禍後の開催となり、約90名の参加となりました。今回、四日市市長、四日市市議会議長が来賓として参加していただくなど、これまで以上に地区防災組織へ求められる役割が増していると感じています。

今回の総会審議では、令和4年度の活動報告や決算、令和5年度の活動計画と予算を審議し承認を頂きました。また今回は、会長と役員の変更が行われ、コロナ禍が明けた中で新たな門出となりました。気分を一新して、これからも防災に丸となって取り組んでまいります。

今年度は、徐々に再開されつつある防災訓練や研修などを一層充実させ、感染症対策を行いながら防災活動ができるように励んでいく所存です。各地域においても、コロナ禍で抑えられていた大規模な訓練など、大人数が集まる防災活動を行うことも増えていくと思われます。今後の防災を考えるためには、コロナのみでなく、感染症対策を考慮していく必要があるため、実際の活動では、参加される方の協力がこれまで以上に必要になると思います。大勢の人が集まり協力することで、コロナ禍では難しかったこともできる大きな力となります。これから先は、この力を存分に活用していければと思います。

これから先、新しい時代へと移るにあたり、地区防災も住民の要望に沿った役割や、視点が必要となります。地区防災組織連絡協議会は、皆様と共に、新たな歩みを進めてまいります。これからもよろしくお願いいたします。

【総会の様子】



総会で講演会を開催しました

令和4年度に引き続き、令和5年度の総会においても防災啓発のための講演会が行われました。講師を務めて頂いた名古屋大学減災連携研究センターの都築充雄特任准教授は、中部電力株式会社出身の電力に関する専門家です。

「災害が起きるとなぜ停電するのか」と題した講演では、電力の需給バランスが崩れることで停電が起きることや、実際の停電事例について解説して頂きました。大規模災害では、復旧に要した日数や、道路事情など複合的な要因から時間が掛かり容易に復旧できない場合など、学ぶことが多くありました。防災に取り組む中で、災害時に起きる出来事の一つとして停電はよく挙げられますが、停電を中心に据えた講演を聞く機会は珍しく、とても興味深いものとなりました。

近年はスマートフォンやタブレットの普及により、人によっては電池の残量や電源の確保などが気になるなど、電気への関心が日常生活の中でも高まっているように思われます。これまでよりもさらに、停電が身近な危機だと映る方も多いのではないのでしょうか。災害が起きた時の電気の安定供給は、防災活動を行う上で重要な課題であることは明らかであり、今回の講演会はとても有意義なものとなりました。

今後も防災に関する講演会を行い、防災訓練に加えて防災啓発活動にも力を入れていきたいと考えております。今回の電気同様、世間の関心が高いテーマは次々と出てきます。防災に関する学びは、日々更新していく必要があるため、これからも新しい情報に注視し防災啓発を行えるよう、地区防災組織連絡協議会として励んでまいります。



【講演会の様子】



地震・風水害に備えて 進めよう！家庭内備蓄！

●最低一週間分の備蓄品

大規模災害が発生すると、国等から様々な物資支援が実施されますが、市民の皆さまの手に届くまでは、どうしても日数がかかってしまいます。

そのため、水や食糧は最低一週間から10日分を目安として備蓄しておきましょう。

非常食の生活が続くと、普段食べ慣れていないこともあり、ストレスを抱えてしまう恐れがあります。

しかし、現在の非常食は様々な種類があり、スーパーなどで簡単に購入することができます。好みの味の非常食を見つけ、備蓄すると、災害時のストレス軽減にも繋がります。個人に合った食糧品の備蓄を心掛けましょう。



●日用品も備蓄しましょう

大規模災害発生後、生活に必要な日用品も不足します。マスクやトイレトペーパー、おむつ、生理用品、洗面用具、食器類、常備薬などの日用品にも留意しましょう。

また、季節に合わせて、毛布や衣類なども準備しておきましょう。

普段から備蓄しておくことで、感染症対策など自然災害以外の非常時にも必ず役立ちます。



●ローリングストックで備蓄

従来のように特定の非常食を長期間ストックするのではなく、定期的に非常用の食品を食べ、食べた分を買い足していくことをローリングストックと言います。

この方法であれば、消費期限が1年程度のレトルト食品でも非常用の備蓄品として保存できるので、普段から食べているものが災害時の食卓に並び、安心して食事をとることができます。

食糧品だけでなく、日用品も少し多めに買い、使った分を買い足しておけば、常に新しい物を備蓄することができます。



黄色いハンカチ作戦による情報伝達訓練

県地区自主防災協議会 会長 小松 茂久



新型コロナウイルス感染症の影響で、三密を避けながら参加者を限定し、防災訓練を実施してきた三年間でした。その中でも住民が一斉に取り組める訓練として、災害発生直後の安否確認から、情報伝達がスムーズに行われることを目指し、令和3年より「黄色いハンカチ作戦」を実施しています。防災訓練の日に、新しく作成した黄色いハンカチを家の門扉に結んだり、

郵便受けに挟みます。自治会ごとにハンカチを目視で確認し、デジタル無線機を使って集計数を本部に報告します。二年連続で行うなかで、達成率が上がった地区と下がった地区があり、毎年発行する防災通信の中に明記しています。今後も継続することで住民の中に、災害時は黄色いハンカチを掲示するという意識が浸透し、イザという時には安否確認と救出活動が迅速に行えることを願っています。

さらに今年度は単一自治会ごとに防災訓練を実施する予定です。地区ごとの状況にあわせ、工夫した防災訓練で地域住民のつながりがより深まることを期待しています。



“隣保協同”で地域を守る

楠地区自主防災協議会 会長 高橋 由信

楠地区では例年、11月第二日曜日に「楠地区総合防災訓練」を実施しています。

現状では新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、縮小して実施していますが、防災訓練は体験型訓練を基本に、「令和4年度総合防災訓練」は、①消火ホース取扱い、②放水訓練、③水消火器取り扱い訓練、④防災講座（災害に備える！～風水害を中心として～）を実施しました。

放水訓練では、急に消火栓バルブを開けると、水圧0.3MPaでも“管鎗を持っている人”は、水圧により、振られるため、消火栓、管鎗、補助等の連携が必要です。

また、楠地区には消火栓ボックスが252箇所配備（自治会管理）されていますが、住民が初期消火するための消火栓ボックスだという認識度が低いため、訓練を通じて、火災時には住民が初期消火を行い、自分達の地域は“自分たちの手で守る”という防災意識向上を図っていきます。

有事の際、慌てず確実に操作し対応できるように、日常から地域や近隣の人が互いに協力し助け合うことにより、災害時の被害を抑えることができるよう訓練を行います。



保々地区合同防災訓練『情報伝達訓練』

保々地区自主防災協議会 会長 出口 文彦

保々地区は、市内の最北部に位置し、朝明川沿いの14自治会からなります。面積は10.86km²、海拔は低い所でも30m以上あります。

令和4年9月18日（日）午前の部は、各町自治会で災害発生を想定した防災訓練を実施しました。内容は、自治会毎に消火器使用訓練（7地区）、土嚢づくり（2地区）、AED操作（4地区）、炊き出し（2地区）、ポンプ放水（1地区）訓練を行い、総参加住民は701名でした。午後の部では、1時30分に保々地区災害対策本部を開設し、無線交信訓練を行い、自然災害（地震・風害・水害など）時の正確且つ詳細な情報伝達が如何に重要であるかが認識できました。各自治会での午前の部の訓練内容を、無線機で報告をしていただき、地区市民センターへ避難要請しました。その後、危機管理課の講師の方から「災害から命を守るために」をテーマに防災講演会を行い、まる一日掛けての防災訓練を行いました。



防災講演会視聴（参加人数30名）



根尾谷断層地震観覧館（語り部さんより説明）

また、令和4年12月3日（土）に保々地区自主防災協議会（各町自治会防災隊長）は、根尾谷地震断層観覧館への視察研修を行いました。根尾谷地震断層観覧館で語り部さんによる説明を聞き、直下型地震による断層観察・地震体験館では、震度6の地震体験を通して地震に関する知識を得る事や、過去の震災から教訓を学びとる事が出来ました。

令和5年度より保々地区自主防災協議会では、各地区自主防災組織（14地区）で、「女性防災委員」2名の選出をお願いしており、女性の目線を取り入れ、地域の特性に応じた活動をすすめてまいります。

どうする？中学生！

海蔵地区防災会 会長 羽場 誓司

毎年5月末頃に、市立山手中学校の生徒を対象に防災講座を実施しています。今年からは防災設備（発電機、照明器具等）の操作や取扱い方法ではなく、実践的な“いざ、まさかのとき”にどう対処するか？という視点で、心肺蘇生法を四日市市中消防署の消防士の方々や四日市市消防団、海蔵分団の方々を講師として、一人一人が「知っている」から「体験してみる」になるように、さらにまさかのとき「行動に移す」ができるように、無条件反射的な体験を通して学んでいただきました。同じ内容の講座を何年と繰り返し実施するその先には、山手中学校の卒業生は全員、災害が発生し甚大な被害を被った中でも、自ら動ける人になり、自助・共助が出来る人になると考えます。



▲昨年度実施の防災講座①
体育館内で危機管理課による災害情報学習



◀昨年度実施の防災講座②
屋外での仮設トイレにて、緑に着色した水での排便収納袋を使用した模擬体験